

議題1 平成31年度（令和元年度）学校経営計画及び学校評価について <資料②>

質問

- 評価指標『三.(1)イ～臨床心理士やSSWとの相談体制を確立できたか』などをはじめ、いくつかの評価指標については、自己評価が記載されていない部分があるように思うが、細かな点については、スペースの関係で省略されているという理解でいいのでしょうか？

⇒ スペースの関係で省略させていただいている部分もあります。

実績としましては、臨床心理士、公認心理師は43時間、SSWは192時間ご来校いただき生徒や保護者、教職員の相談を実施し、生徒支援のために活用することができました。

- 三.(3)に関連して、『市内の就ポツとの連携は十分にできない状況がある』とされていますが、何か理由があるのでしょうか？

- 三.(3)イ：大阪市の就労・生活支援センターとの連携が十分にできない理由は何か？

⇒ 学校は卒業後3年間アフターフォローを行うとしており、卒業の際、移行支援会議を行いながら、就ポツと引継ぎや連携を行うようにしております。しかし、大阪市内の一部の就ポツでは、保護者が連絡したにも関わらず、今現在、何も不安なことが起きていなければ、登録や相談を行わないと断られるケースが出てきています。

学校としては、いざという時、突然相談するよりも、一度顔合わせをして実態の確認や学校での様子、就労後の課題等を共有したいのですが、なかなか理解を得ることが難しいです。今後、教育庁や各機関との連携を取りながら、就ポツとの連携を進めていきたいと思っています。

質問

- 学校教育自己診断の結果と分析について、生徒の回収率（74.6%）が悪い要因は何なのでしょうか？

⇒ 長欠生徒の回収が難しい点や、自宅に持ち帰り記入してもらっていますので、提出されないケースもあります。

次年度は、校内でアンケートの記入をしてもらうなど改善していきたいと思っています。

- 「2. 中期的目標の2(1)保護者と学校が、すべての生徒就労実現の進路目標を共有する」とありますが、具体的に進路目標とはどんな内容だったのでしょうか。

⇒ 入学後、就労に向けての様々な指導・支援を行っておりますが、入学前や在学中から就労以外の進路希望を持つ生徒もいます。本校を入学する前に、オープンスクールや学校説明会、教員向けの研修会等を開催し、本校の意義、卒業後の就労を通じた社会的自立を目指す学校であると発信しておりますが、3期生までの現状は就労以外の進路選択をする生徒もいます。本校としましては、就労を希望する生徒は100%就労を目標として取り組んでおります。

- 今年度卒業の進路状況を教えてください。
就職 32 名、就労継続 A 型 3 名、就労継続 B 型 1 名、自立訓練 1 名、就労移行 3 名
訓練校等 1 名、進学 1 名（大学）、未定 4 名（自宅療養、アルバイト等）（卒業生 46 名）
就労率：76%

質問

- 【一】（1）オ：生徒、保護者の授業・指導に対する肯定率が目標を下回ったという事であるが、具体的にどのような指摘があったのか？
⇒ 専門教科で、実技実習と座学との授業バランスが、生徒にニーズに合っていなかったことがありました。担当教員への助言や学年での取り組みで改善をしています。
教科学習によっては、内容が難しいことがあったようです。こちらも教科で共有し、生徒の実態を的確に把握すること、シラバスの見直しなどを行っております。

意見

- 学校教育自己診断の結果と分析について、生徒は学校に登校していれば回収できると考えます。回収できないのは、不登校などの生徒の要因なのか、教員との意思疎通の問題なのかなど、回収率をあげるヒントが隠れているように思う。もし家庭に持ち帰っているのであれば変更し、登校時に回答すればより本人の意見を反映させることができる。また、自分で選択・決定していく力を育てていくのにもつながるのではないかと。
⇒ 次年度は、生徒に対しては学校でのアンケート記入を行いたいと思います。
- 進路目標と実績について、進路目標が具体的に表現されず、その結果の表現がない。一般就労を標榜している支援学校だと考えるので、3年間の教育支援の成果として卒業進路についての目標値など何らかの表現は高等支援学校として必要ではないか。定着支援と地域の連携は掲げられている。
⇒ 次年度の学校経営計画及び学校評価の作成においては、具体的数値を記入したいと思います。

意見

- 【一】（1）オ：上記に関して、個を批判するのではなく、課題を整理して、対応策をブレインストーミングし、実行可能な解決策を検討できると良いだろう。
⇒ 教員がそれぞれで授業を計画するのではなく、教科を縦断し、3年間を見据えたシラバス作成に取り組んでおります。その為には、まずは生徒の実態を把握し、生徒に必要な内容は何かを検討してきたいと思っております。
- 【三】（3）イ：生徒の将来に関わることなので、課題を整理し、必要であれば、行政にサポートを求めても良いかもしれない。
⇒ 大阪市の就ボツには、話をさせていただいております。生徒の将来のためにも、今後も連携が図れるような体制を築いていけたらと思います。

議題2 令和2年度 学校経営計画及び学校評価について <資料③>

質問

卒後の地域連携の中で、相談支援などへのつながりはどうなっているのでしょうか？

⇒ 学校生活の中で課題のあった生徒、福祉就労を行う生徒については、地域の相談支援につなげるようにしています。本年度よりSSWの配置があり、助言をいただきながら相談支援につながったケースもありましたので、今後も取り組んでまいりたいと思います。

意見

- 『二.(5)難波支援学校との協働、～』と『具体的な取組計画・内容』に記載されている内容では少し齟齬が生じ、『難波支援学校との協働』という部分が薄れている感じがします。重点目標又は具体的な取組計画のどちらかを変更する必要があるのではないのでしょうか？

⇒ ご意見ありがとうございます、見直しの検討を行います。

意見

- 進路目標について前年度と同様、進路目標が具体的に表現されていない。一般就労を目標としている支援学校だと考えるので、3年間の教育支援の成果として卒後進路についての方向性や目標値を示されれば分かりやすい。

⇒ 具体的な数値を検討し記載したいと思います。

意見

- 次年度からは、共生推進教室が始まるので、共生推進設置校との連携に加えて、校内での情報共有がさらに重要になると考えられる。加えて、現在も生徒本人の心の準備が整わないまま、受験前に慌てて療育手帳を取得するなどして、なにわ高等支援学校に入学し、気持ちが追い付いていない生徒が毎年みられる。共生推進教室に通う生徒は、通学先が2か所あり、卒業証書が長時間過ごす共生推進設置校ではなく、なにわ高等支援学校から授与されることから、心の準備が整わないまま入学した生徒は、より混乱する可能性があると考えられるので、保護者等々もきめ細かな連携を取りながらサポートしていくことが必要になるかもしれない。

⇒ 設置校と協力しながら、共生推進教室の生徒が学びやすい環境づくりや保護者との連携を取っていきたいと思います。

意見

- 「二、(2) 就労支援に関する支援教育のセンター的機能の発揮」について地域の高等学校へ進学した者が求職活動に遅れや困難な状況があります。各高等学校の進路指導の課題ではありますが、「どこに相談したらいいか分からなかった」という教諭や保護者の声もありました。ハローワーク大阪西と致しましても、ハローワーク・支援機関等のご利用を案内するとともに、ハローワークで開催している「教官会議」等の場においても周知徹底してまいります。貴校では昨年引き続き様々な取組みを計画されていますが、引き続きセンター的機能を担っていただきますようよろしくお願い致します。
 - ⇒ 高等学校への支援は、今年度、生徒指導に関して、共同で研修を行いたいというニーズがあったため研修会という形で行いました。進路指導に関してのニーズはまだ届いていませんが、情報発信などを行い、具体的な相談があれば対応していきたいと思えます。

議題3 その他 学校運営に関する質問及びご意見（何かあればご記入ください）

質問

なし

意見

- 委員として毎回会議に出席していて、学校側の説明で学校内の状況や事情を理解し、その上で意見交換するには時間が短いと感じています。
 - ⇒ 次年度の学校運営協議会の内容や時間帯、時期などの検討を行いたいと思えます。

意見

- 次年度最初の学校運営協議会において、今年度卒業生の進路（就職した方については、就職先の業種と雇用形態）が分かるとありがたいです。
 - ⇒ 承知いたしました。